

# カウラ事件から 何を学ぶか

NHK 報道特集「カウラ事件 高校生が見た戦争の悲劇」を見て  
札幌たのしい授業・研究サークル用緊急レポート

2009.4.25a

*Happy birthday, Dad*

仮説実験授業研究会・北海道

丸山秀一

## 【質問】

先日 NHK で、「カウラ事件の事を知った高校生が、番組を作り、オーストラリアの人々にも、それを伝えた」という報道がありました。高校生達は、どんなことを「カウラの教訓」と考えたのでしょうか。

まず、あなたなら、カウラ事件のどんなことを多くの日本人や、オーストラリアの人々に伝えたいと思いますか。

【問題】

山陽女子高校の生徒達は、歴史の授業でカウラ事件の事を知り、「なぜ捕虜達は脱走し、死なねばならなかったか」ということが知りたくなり、それをミニ番組に作る事にしました。

そして、カウラ事件を体験した元捕虜にインタビューします。

では、元捕虜はカウラ事件で死んだ捕虜達の事をどう語るでしょうか。

予想

- ア 「国家の犠牲者だ」
- イ 「あの当時では仕方がない事だった」
- ウ 「死ななかった私たちの方が悪い」
- エ そのほか

## 非国民

番組では、「脱走の目的は死ぬ事だった」として、その理由を「戦陣訓」に求めます。「捕虜となれば家族も非国民扱いされる」というわけです。でも、注意してほしいのは、「非国民扱いしたのは誰か」という事です。

元捕虜は次のように語ります。

「(脱走して死んだ方は)みんな潔白な方です。むしろ生きて帰ってきた私たちの方が腹黒い、凶太いように感じます」

つまり、元捕虜は「一緒に死ななかつた事」の罪悪感を持ち続けているのです。

「カウラの問題は風化しないで永久に残っていく」とも語りますが、その「残っていく内容」が問題なのです。

【問題】

生徒達は、インタビューを元に、「死ぬための大脱走 カウラ事件生存者からのメッセージ」というミニ番組を制作します。そして、彼らは、その番組を使ってオーストラリアの人々にも、「事件の事を理解してほしい」と思い、カウラへ向かいます。

カウラでは、現地の高校生に番組を見せて、説明しましたが、日本の高校生が現地の人々に伝えたかった事はなんだったのでしょうか。

予想

- ア まずは事件の事実
- イ 謝罪と感謝
- ウ 平和への決意
- エ そのほか

### 「理解してほしい事」

高校生のカウラ訪問の目的は、「オーストラリアの人々に日本兵が置かれていた状況を理解してほしい」ということでした。それは、「日本兵が死を選ばざるを得なかった事」という状況で、「狂気の集団自殺に見えるが、日本兵としては、まっとうな行動だったのだ」ということなのです。

**【問題】**

日本の高校生「日本兵の取った行動はおかしいと思うか」という質問に、カウラの高校生達はどのように答えたと思いますか。

予想

- ア 全く理解できない
- イ 少しは理解できる
- ウ わかった

## 狂気の原因

カウラの高校生たちは次のように答えました。

「待遇が良かったのに脱走する必要はあったのか」

「捕虜になるのは仕方のない事。死ぬ必要はない」

「日本兵の考えはわかったが、たとえみんなが死ぬ事に同意しても、私は同意しない」

ここで、日本の高校生は、日本の「集団行動を重んじる」という国民性について説明し、さらに理解を得ようとします。

そして、あるカウラの生徒が

「日本人の恥や誇りを理解していなかった」

と答えました。

しかし、日本の高校生が彼らに伝えたかったのは「日本人の恥と誇り」だったのでしょうか。

このあと NHK の番組では、キャスター達が解説をします。ここでは、

「なぜ事件は語られなかったのか」

「日本国内では知られていないのはなぜなのか」

というのが話題となり

「事件の理解が深まっていない」

という結論になります。

でもいったいどういう理解が深まっていないというのでしょうか。それは「恥と誇り の理解」なのでしょうか。

番組は最後に、

「高校生には、現地の人々が敵味方の区別なく保存し語り継いで

いこう というのが驚きだったようだ」として

「こんどは高校生が多くの人に伝えてほしい」と結んで終わります。

繰り返します。いったい何を伝えてほしいのでしょうか。  
なにを????

おわりに 狂気の中にあるもの

日本兵の行動は狂っていました。それを「誇りと恥」で正当化してしまえば、それでおしまいです。以前 NHK は、優れた「カウラの大脱走」というドキュメンタリーを制作しているのに、そこからまるで何も学んでいないようなこの報道特集は、いったいどうしたわけなのでしょう。

ただ「カウラの大脱走」では、「狂気の原因」が、「戦陣訓」にあるとされ、軍部や政府が悪い事にされていました。しかし、捕虜達のすばらしい証言が、本当の理由を明確に語っていました。

民主主義の国では、国民が学ばなくなる事が一番恐ろしいのです。

